



ジギタリス ダルメシアン

学名: *D. purpurea*

種子粒数の目安: 800 から 1,000 粒/グラム

開花特性と要因

- 初年開花の特性を有する
- 低温処理(バーナリゼーション)は不要
- 日長時間との関係では、条件的長日開花の特性を有する
- ジギタリスは、強い光条件と水分が十分にある環境でよく育つ植物である

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、ピート主体の新しいプラグ用培地を使用する。培地の pH は 5.5 から 6.5、また初期培地の養分は中庸(EC: 0.7 から 1.0mmhos/cm(1:2))とする

播種

288 穴トレイ	1 粒播き/1 穴
180 穴トレイ	1 粒播き/1 穴
84 穴トレイ	4 粒播き/1 穴

- 発芽には光が必要なので、覆土はしない
- 立枯れ予防のため播種後、殺菌剤を散布する
-

ステージ 1 - 発芽日数は概ね 5, 6 日

地温: 18 から 20°C

光条件: 発芽時、光はオプション(任意)

水分: ステージ 1 では、水分レベルをやや湿潤(level 4)で維持する

湿度: 幼根が発生するまでは相対湿度を 95 から 97%

ステージ 2

地温: 18 から 20°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: 水分レベルを少し下げて、やや湿潤(level 4)から中庸(level 3)の範囲で、根が培地中をしっかりと行き渡るように促す。乾燥させすぎて、苗を枯らせないように注意する

肥料: リン酸の低い硝酸態の肥料をレート 1(100ppm (N)以下、EC:0.7 mS/cm)で与える

ステージ 3

地温: 18 から 20°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: 標準/中庸(level 3)とする。次の水やりの直前までに培地の表面が薄茶色に乾くような、やや乾かしぎみの管理を行う

肥料: ステージ 2 同様、硝酸態の肥料をレート 1(100ppm(N)以下、EC:0.7 mS/cm)の濃度で与える。培地の pH を 5.5 から 6.2 の範囲で管理する

矮化剤: ジギタリスは、B ナインとボンザイによく反応する植物である。B ナインを用いる場合は、播種後 2, 3 週で、3,000ppm を散布する。必要に応じて、1 週後に再度与える。温度の高い条件では、ボンザイ 5ppm(もしくはスマジック 3ppm)の散布が有効である。

ステージ 4

地温: 14 から 18°C

光条件: 53,800 ルクス(5,000 f.c.)を上限とする

水分: ステージ 3 同様

肥料: レート 1 からレート 2(175ppm(N) を最大とする、EC は 0.75mS/cm(1:2))の間で調整しながら、硝酸態肥料を与える

※ 5°C で 1 週間、予冷すると発芽に効果がある

鉢上げから出荷まで

コンテナサイズ

15 cm	1 本植え - 288 穴トレイ(1 粒播き)
18 cm	1 本植え - 84 穴トレイ(4 粒播き)
30 cm	3 本植え - 84 穴トレイ(4 粒播き)

用土(培地)

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。用土の pH は 5.5 から 6.2、初期の養分は中庸(EC: 1.0mmhos/cm)とする

生産中の EC 管理

初期(前半ステージ)	EC = 1.0 から 1.2
終期(後半ステージ)	EC = 1.3 から 1.5

温度

昼間温度: 16 から 20°C

夜間温度: 10 から 18°C

※ とくに施設外栽培の場合は、凍結させないように注意

照度(光条件)

補足的な電照等は不要。光条件が強いほど開花が促進される

日長条件との関係

ジギタリスは条件的長日植物であり、だいたい 14 時間が長日条件の限界となる

かん水

水分管理では、標準/中庸(level 3)からやや湿潤(level 4)の範囲を維持する。極端な過湿や乾燥は避ける。次の水やりの直前までに培地の表面が薄茶色に乾くくらいの管理が望ましい

肥料

レート 1 からレート 2(175ppm(N) を最大とする、EC は 0.75mS/cm(1:2)の間で調整しながら肥料を与える。用土(培地)の pH は 5.8 から 6.2 を維持し、値が高くならないように注意する。値が 7 を超えると、若葉が黄化し、草丈や開花にストレス障害が現れる

矮化剤(PGR)

ジギタリスは、B ナイン 2,500ppm の反復投与によって効果が確認されている。必要に応じて、移植後 2 週をめぐりに初回の投与を行う。温度の高い条件では、ボンザイ 5 から 10ppm(もしくはスマジック 5ppm)の散布が有効である

ピンチ

ピンチは不要である

スペーシング

個体間の葉どうしは触れはじめたら適宜スペースをとる

平均的な生産期間

播種から移植まで(288 穴トレイ): 5 から 6 週

播種から移植まで(180 穴トレイ): 6 から 7 週

移植から開花まで: 11 から 12 週

適切な日長条件と 16 から 20°C の温度を条件とする

播種から開花まで: 15 から 18 週

適切な日長条件と 16 から 20°C の温度を条件とする

大きなコンテナを用いたり、移植本数を増やした場合は、生産期間終了まであと 1 週長く要する

春生産の通常の作型:

2 月中旬、あるいは下旬の播種で、6 月中旬から下旬に自然開花する

病例等

害虫: アブラムシ、ホワイトフライなど

病気: ボトリティス、べト病、斑点病など

定植場所や配置について

- ジギタリス・ダルメシアンは、初年開花の宿根品種。USDA 耐寒性指標はゾーン 5-9(最低温度マイナス 29°C)
- 花壇定植後の草丈はおおよそ 80 から 110cm。強い風に対してはステムの折損等を防止することが望ましい
- 降霜の懸念がない場合は、適宜日陰がとれるような場所に定植をする
- 定植時は、株間を 30 から 40cm とって、水はけのよい土へ植える

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに則った正しい使用方法とるようにしましょう

EC 値について: EC(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、条件によっては適合し得ない場合があります。

